

2024

かしこく やさしく たくましく

七里だより

R7. 3. 21(金)

第20号

七里小学校

文責:校長 吉岡

卒業 おめでとう! 7名の旅立ちの日に寄せて

柔らかな春の日差しに、桜のつぼみも膨らみを増した今日の佳き日に、多数のご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席を賜り、このように盛大な卒業式が挙行できますことに心より御礼申し上げます。

さて、本日、七里小学校を巣立っていく7名の卒業生の皆さん。ご卒業おめでとうございます。皆さんは、今、6年間の小学校生活を終え、新しい世界に旅立っていこうとしています。



【19日、6年生小学校最後の給食】

皆さん、6年前のことを覚えていますか。ランドセルを背負い、お家の人に手を引かれ、小学校の校門をくぐった日のことです。何もかもが初めてのことで、毎日が新鮮だったことでしょう。それから6年間。皆さんは雨の日も風の日も学校に通い、心も体も大きく成長して、今ここにいます。

私は、君たちが6年生になった4月、この七里小学校に赴任してきました。最初の出会いは、春休みにもかかわらず、着任式・入学式での挨拶の練習に来てくれていた、琉人君、樹稀君でした。練習が終わって、校長室にあいさつに来てくれました。2人の笑顔を見て、「よし、この一年、頑張るぞ」と思ったことを覚えています。

そして、この一年、皆さんの活躍は、たのしく、七里小学校のリーダーとして、常に先頭に立ち、心一つにして頑張ってくれました。様々な活動を通して、助け合うこと、相手の立場に立って考えること、みんなで高め合うことの大切さを下級生に示してくれました。

休み時間には、学年を問わず仲良く遊び、低学年にも優しくしている姿を何度も見ることができました。修学旅行、一緒に行きましたね。影野、仁井田、米奥小の六年生ともすぐに仲良くなり、たくさん学び、たくさん楽しい思い出を作ることができました。レオマワールドで集合時間に遅れる失態、あれもいい思い出です。運動会では、全員が応援団長、応援合戦も自分たちで作り、大きな声で下級生をリードし、立派に仕上げることができました。アンコールがあったダンス。とても恰好良かったです。緊張感に打ち勝って最高の合奏を披露した音楽祭。さすが六年生という姿を見せてくれた学習発表会。先日は、全校のみんなとの思い出にしたいとこの学校では初めての「校内かくれんぼ」を実施してくれました。どれも懐かしく、素晴らしい思い出です。皆さんにとっても、きっと心の支えになっていくことでしょう。

このように、数々の素晴らしい思い出を残してくれた皆さんも、4月からは中学生になります。そこで、卒業にあたり、皆さんへのはなむけとして、二つのことを伝えたいと思います。

一つは、「何かを行う時には、まず強く思うこと。強い思いが必要だ」ということです。それは、『覚悟』と言い換えてもいいかもしれません。そういう覚悟があると物事は実現しやすくなります。反対に、この覚悟がないと、人は少しの困難であきらめてしまうものです。

パナソニックという大きな会社を作った松下幸之助さんという方がいます。もう亡くなっていますが、商売の神様と言われるほど、商売が上手な人でした。その松下さんが、あるときたくさんの社長さんや会社の偉い人の前で、「ダム式経営論」という話をしたことがありました。

会社というものは、急にお金が必要になったり、急いで仕事をしなくてはならなくなったりすることがあるから、そういうときのために、お金とか優秀な人とかを日頃から蓄えておかななくてはならないよ、という考え方です。そうしたら、この話を聞いた人たちは、自分たちはそれができないから苦労しているので、どうしたら資金や人材を蓄えることができるのか、その方法を教えてほしいと言ったそうです。

すると松下さんは、ダムがどうしたらできるのか、自分もその方法はよくわからないけれど、まずはダムをつくらうと強く願うことが大切である。ということをお答えしたそうです。

このように、何かをやり遂げたいと思ったら、実行することはもちろん大事なことです、その前に、強く思うということも大事なのです。強く思うことで、そのことについての情報がどんどん入って来ます。それでますます興味がわいて、やる気も出てきます。

皆さんが、将来こうなりたいとか、こういうことがしたいと思ったら、そうなりたいと強く思う、毎日思う、そういうことをまずしてみてください。紙に書いたり文章にしたりすると、さらに思いが強まります。ぜひ挑戦してみてください。

もう一つ伝えたいことは、心が変われば運命が変わるということです。

心が変われば行動が変わる 行動が変われば習慣が変わる

習慣が変われば人格が変わる 人格が変われば運命が変わる

この言葉は、かつてアメリカのプロ野球、メジャーリーグのヤンキースで活躍した松井秀喜選手の座右の銘としても知られている心理学者ウィリアム・ジェームスの名言です。

ヤンキースで中心選手として活躍していた松井選手は、実は2006年に大きなけがをしています。その日の試合でレフトを守っていた松井選手のところにフライが飛んできました。松井選手のかなり前で落ちそうな勢いのボールでした。松井選手はそのボールをキャッチしようと勢いよく前に走り、ボールが落ちる寸前にグラブを出して、滑り込んで取ろうとしたのです。

そのとき、事故が起きました。差し出したグラブがグラウンドのくぼみに引っかかってしまったんです。松井選手の手首に強い衝撃が加わりました。手首の複雑骨折でした。もう野球ができないかもしれないというくらいひどい骨折だったそうです。

でも、幸運なことに手術は成功。松井選手は必死にリハビリをし、けがをしてから124日後、試合に復帰しました。そして、その復帰第一戦の第1打席、なんとセンター前にタイムリーヒット。さらに次の打席もヒット、その次もその次も、という具合に、見事4打数4安打だったのです。松井選手の心の強さと技術が本当にすごいということが分かると思います。

心が変われば行動が変わり、習慣が変わり、人格が変わり、運命が変わります。始まりは心を入れ替えることです。

皆さんのこれからの長い人生、いろいろな出来事が起こるでしょう。やりたいことが見つかったら、まずそのことを強く思いましょう。うまくいかなかったら心を入れ替えて再チャレンジしましょう。そうして、よりよい未来を手に入れてください。

保護者の皆様一言申し上げます。お子様が今日、立派に小学校を卒業されますことを、職員を代表しまして心よりお祝い申し上げます。小学校卒業という節目を迎えられ、これまでのご苦勞も大きな喜びに変わっていることと存じます。この六年間、本校の教育活動に格別の御理解御協力を賜りましたことを、心より感謝申し上げます。これからもお子様がかしこく、やさしく、たくましく成長されますようお祈り申し上げます。

また、ご来賓の皆様には、ご多用の中、ご臨席を賜り、衷心よりお礼申し上げます。卒業生に対するこれまでのご厚情と本校教育へのご支援に対しまして、改めて深く感謝申し上げます。今後とも、次代を担う子どもたちの育成のため、温かく、そして厳しくご指導賜りたいと存じます。

名残は尽きませんが、卒業生の皆さんの輝ける未来に幸多からんことお祈りして、式辞といたします。

令和7年3月21日 四万十町立七里小学校長 吉岡 栄作

掲載、おめでとう！

1年生、横山颯記さんが書いた詩が「やまもも第49集」に掲載されるといううれしいお知らせが届きました。本が出版されましたら、また紹介したいと思います。



3月24日(月)

修了式・離任式

登校：通常通り

8：50～9：10	修了式
9：10～9：30	離任式
9：30～	学級指導
11：00	児童下校